

コミュニケーションの工夫

ちょっとした工夫で不安を軽減し、妊婦さんと病院とのコミュニケーションをスムーズにすることができます。多言語資料や通訳制度なども活用することで、安心な出産をサポートすることができます。



がっちり支えるから
安心してね!

やさしい日本語を意識して

熟語をより平易な言葉や表現に言い換える、相手の表情や反応をみながらゆっくり繰り返すと情報が伝わりやすくなります。

言い換えて
みよう!

「分娩室」→「赤ちゃんを生む場所」
「出血がありましたか?」→「血が出ましたか?」

「伝わっているかな?」確認しながらコミュニケーション

「大切な部分にマーカーを引く」、「覚えてほしい単語にルビをふる」、「ローマ字で書き換える」、「日時や数値を書いて渡す」などすると、伝えたい内容を整理することができます。「人体図や実物を見せる」、「イラストを描く」のも効果的です。

電子辞書や翻訳ソフトを駆使して

インターネット上の自動翻訳も精度が上がっており、やりとりの一助になります。よく使う用語や表現については、インターネット上にある翻訳リストや多言語情報を印刷してファイルしておく役立ちます。

通訳・電話相談も活用

日本語でのやりとりが難しい際に、外国語で対応する相談窓口や通訳派遣制度を活用できます。本パンフレットの「お役立ち情報」を参考に、利用方法を知っておくと安心です。

お役立ち情報

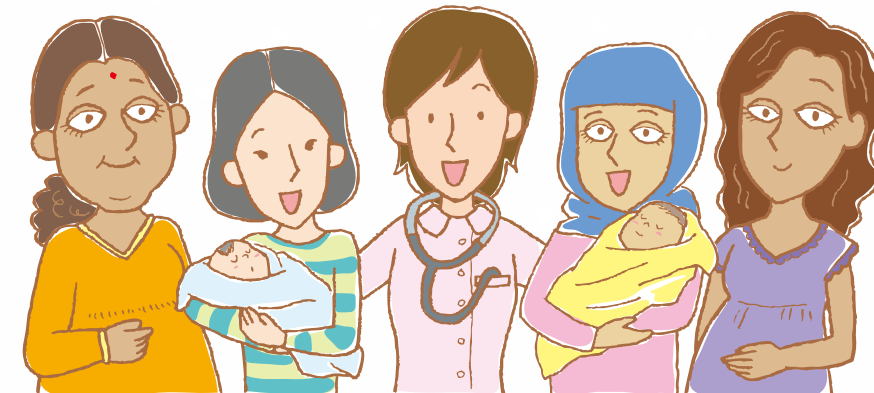
- ◆医療通訳派遣
(特活) 多言語社会リソースかながわ (MIC かながわ)
<http://mickanagawa.web.fc2.com/>
神奈川県内の協定病院に医療通訳ボランティアを派遣しています。
- ◆多言語による医療機関情報・診療時の無料電話通訳
(特活) AMDA 国際医療情報センター <http://amda-imic.com/>
多言語による医療機関情報の提供や診療時の無料電話通訳(医療機関の許可が必要)を行っています。
TEL: 03-5285-8088
- ◆外国語版 母子健康手帳(8言語、2016年5月にベトナム語も追加予定)
(株) 母子保健事業団 <https://www.mcfh.co.jp/material/search/category:6>
- ◆ホームページから無料でダウンロードできる多言語情報
「ママと赤ちゃんのサポートシリーズ」(5言語)
多文化医療サービス研究会 (RASC) <http://www.rasc.jp/index.php?itemid=8>
日本で出産・育児するために必要な情報が多言語で提供されています。
「予防接種と子どもの健康」(本文5言語、予診票14言語)
(公財) 予防接種リサーチセンター <http://www.yoboseshu-rc.com/publics/index/8/>
保護者向けに予防接種に関する正しい知識について記した「予防接種と子どもの健康」及び「予診票」を翻訳し公開しています。
- ◆外国の出産事情「世界のお産」
<http://www.caretheworld.com/index.html>
世界の様々な国の出産事情が紹介されています。

- ◆(公財) かながわ国際交流財団発行の多言語資料・サービス
★ダウンロードしてご活用ください。
「予防接種のしおり」(10言語) <http://www.kifjp.org/shuppan/multi>
「多言語医療問診票」(11診療科目、18言語) <http://www.kifjp.org/medical/>
★希望の言語で生活情報を月に4回受け取ることができます!
「多言語情報メール配信サービスINFO KANAGAWA」(6言語) <http://www.kifjp.org/>

KIF 公益財団法人 かながわ国際交流財団 TEL: 045-620-0011 ● FAX: 045-620-0025
Kanagawa International Foundation e-mail: tabunka@kifjp.org ● URL: <http://kifjp.org/>

～母子保健にかかわる皆さんへ～

外国人ママが 日本で安心して出産するために



神奈川県には、160を超える国・地域出身の外国人住民が暮らしており、その言語、文化、宗教も非常に多様です。定住化が進み、出産・子育てをするケースも増えています。

2014年に神奈川県内で生まれた、外国につながる赤ちゃんは3,445人^{*}。外国籍の赤ちゃん(1,458人)だけでなく、外国人と日本人の国際結婚等で日本国籍をもつ赤ちゃん(1,987人)も含めると新生児全体の4.6%にもなります。

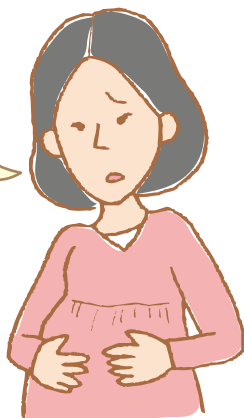
特にママが外国出身の場合、ことばが通じず、頼れる人も少なく、慣れない環境での妊娠・出産に不安を抱えることも多いです。このパンフレットでは、病院関係者や外国人ママの意見を参考に、日本での安心・安全な出産・子育てをサポートするためのヒントを紹介しています。

※厚生労働省人口動態統計より作成

KIF 公益財団法人 かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation

ことばの壁

初めての出産で不安でいっぱい。
日本語もできないし、
頼れる人もいないの。。



病院の日本語はむずかしい

日常会話に支障がない人でも、病院では緊張します。また病院で使われる専門用語は難しく、理解できないことがあります。

「はい、わかりました」という反応があっても、実は重要な部分が伝わっていない可能性があります。



出産を断られるのではと心配で、
病院ではいつもあかつたフリをして
相手を打っていました。

情報は山ほど…でも書いてあることが読めません

コミュニケーションがとれても、日本語の読み書きが苦手な外国人は少なくありません。日本語で書かれた出産に関する情報や分娩・入院に関する案内を手渡すだけでは内容が伝わらないことがあります。書類の記入にもサポートがあると安心です。

日本での出産・育児情報にアクセスできない

外国語版の母子手帳を配布する自治体は増えていますが、多くの情報は翻訳されていないのが現状です。母親・両親教室の参加率も低く、外国人ママは日本での子育てに関する情報を得る機会が限られています。健診時や入院中に関連情報を伝える、気になる家庭については自治体の母子保健部署等に申し送りをするなど、配慮ができると安心です。

ちがいに気づく

外国出身の妊婦さんから思いもよらぬ質問や希望が出され、戸惑ったことはありませんか？異なる文化や風習、社会制度が背景にあることを念頭に想像力を働かせて対応することが大切です。

イスラム教に
配慮してほしい。。



宗教上の理由から、女医さんを希望される妊婦さんもいます。また、父親や親族の役割、出産時の立ち会いや入院中の過ごし方などについても考え方や方法が大きく異なる場合があります。

太過ぎって怒られる。
母国では普通なのに。。



食生活にも、文化の違いが反映されます。また「好きなものを食べてストレスをためないように」とおらかな考え方の国もあります。日本で勧められる食べ物に馴染みがない、人種によって体重増加や胎児の発育状況が異なる場合もあります。

帝王切開を
希望します！



帝王切開による出産が主流な国もあります。赤ちゃんの栄養方法（母乳かミルクか）などについても母国でのやり方にこだわりがある場合があります。

ちがいに向き合う

～こんな工夫・配慮をしています～

多様な価値観や育児観、本人の気持ちを尊重しつつ、病院の方針や安心・安全な出産・育児について伝え、理解を得る方法を一緒に模索していきましょう。



希望は尊重、でも難しい場合は説明を

入院中、イスラム教の方でも食べられる食品（ハラール食品）で対応するなど、可能な範囲で宗教等に配慮している病院もあります。ただし命の安全が最優先であることは事前にきちんと伝えましょう。

違いに配慮しながらコミュニケーション

患者さんの希望や意見を頭ごなしに否定したり、「こうしてください」と指示するより、なぜそうなのか、理由をていねいに説明できるとよりよい理解や関係づくりにつながります。
※かながわ国際交流財団では、多文化に関する職員研修等の企画にも協力しています。

応援する気持ちを伝えて



母国を離れて暮らしていることの不安を受け止め、退院後に安心して子育てに臨めるように情報提供しましょう。

(例)

- 出生届、出産一時金などの手続き
- 1か月健診の日時の確認
- 外国語対応の相談窓口
- 日本での子育ての大まかな流れ